

# 令和4年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立と社会参加を実現できる人間を育成する。

## 2 学校の特色

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部、高等部の肢体不自由の児童生徒と高等部には軽度知的障害のある生徒も在籍し共に学んでいる。通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために、家庭に向いて訪問教育を行っている。肢体不自由の障害の実態に合わせた校内環境の充実、給食の食事形態の工夫、医療的ケア等を実施しており、通学支援としてスクールバスを運行し寄宿舎が設置されている。

児童生徒一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、生きる力を育み、学校生活において学んだ知識や技能を日常生活においても活かせるよう授業実践に取り組んでいる。また、各種行事や校外学習等を通して社会経験の拡充を図ったり、関係機関と連携したりしながら、児童生徒一人一人の卒業後の豊かな生活を目指したキャリア教育の充実に努めている。さらに、交流及び共同学習（居住地校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 現状

- ・本校では、令和2年度に新学習指導要領に基づいた年間指導計画を各教科、特別活動、各教科等を合わせた指導において作成した。昨年度は、作成した年間指導計画を基に実践し、単元の配列の入れ替えや題材の変更などの見直しを行った。また、学校課題研究として、各学部で作成した学習内容表を基に、他教科、他の授業とのつながりを考えた授業実践、授業改善に取り組んできた。その過程で、教科の目標や内容が、児童生徒の実態に合っていなかったり、教科等を合わせた指導における教科等の位置付けが曖昧だったり、12年間の学びの系統性の検証が不十分だったりするなどの課題が挙げられた。
- ・本校に在籍している児童生徒は、家庭はもちろんのこと医療、福祉等、関係機関との密な連携が不可欠である。特別支援学校では、全員に個別の教育支援計画を作成しており、関わる関係機関等を記載しているが、連携のためのツールとして活用するまでには至っていない。

### (2) 課題

- ・教科指導の充実を目指した新学習指導要領に基づく年間指導計画の見直し
- ・個別の教育支援計画を活用した関係機関との連携

#### 4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1 学習活動	教育課程編成  <b>重点1</b>	目標	○新学習指導要領に基づいた年間指導計画の見直しにより、教科指導の充実を図る。
		計画	○年間指導計画について、より児童生徒の実態に即し、学校全体の系統性をもたせたものになるように、学習指導要領を基に、教科ごとの目標・内容や採択教科書を見直す。  ○年間指導計画に基づいた授業実践の結果、得られた改善策を次年度計画に反映させる。
	教科指導(小学部)	目標	○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、自分から活動できる児童を育てる。
		計画	○児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫し、学習内容の充実に努める。  ○生活力を高めるために、基礎的・基本的な内容を重視しながら、学習に対する興味・関心を大切にした学習指導や、教科等横断的な視点での授業実践を行う。  ○様々な体験活動の充実を図り、周囲の人やものに積極的に関わっていく姿や豊かな感情を育てる。
	教科指導(中学部)	目標	○人との関わりや生活経験の拡大を図るとともに、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。
		計画	○必要な情報を学部全体で共有しながら、PDCAサイクルに基づいた授業実践を行い、教科等横断的、系統的な指導の充実に努める。  ○生徒同士で話し合ったり認め合ったりする対話的な活動、自ら見通しをもって学習に取り組む主体的な活動を通して学びが深まるよう、効果的な学習形態や指導方法を工夫する。  ○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して、体力や健康状態に応じた学習方法や学習環境を工夫する。
教科指導(高等部)	目標	○自立と社会参加に向けて、人との関わりの中で社会生活能力を高めるとともに、意志をもち主体的に物事に取り組む生徒を育てる。	
	計画	○生徒の実態の捉え方や進路指導の進め方の知識を高め、生徒一人一人の障害に基づく困難を捉え、現在及び卒業後に必要とされる資質・能力を高められるように、担当者間で連携して指導に当たる。  ○集団活動や人と関わる場を設定し、自分の考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりする経験を積むことで、社会性の伸長を図り、自ら周囲に働き掛けようとする態度を育てる。	
教科指導(訪問教育)	目標	○生徒の能力や個性を大切にして、年齢やニーズに応じた支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに、人との関わりを広げ、自ら取り組みようとする意欲を育てる。	
	計画	○生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢と発達段階に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。  ○家族や医療機関との連携を密にするとともに、ICT機器や遠隔教育システムを活用して通学生と合同で学ぶ機会を設け、訪問教育の充実を図る。	
研修	目標	○12年間の学びと卒業後の生活を見据え、計画的・組織的な学習活動を展開できるよう年間指導計画を見直す。	
	計画	○授業実践に向けて、児童生徒の各教科における実態を把握し、指導目標と評価の観点を設定する。  ○授業実践を振り返り、単元(題材)の内容、指導目標、配列、時数などを見直し、年間指導計画を改善する。	

		I C T 機器活用	目標 ○児童生徒の実態や障害の特性を踏まえた I C T機器を活用した指導を推進する。
			計画 ○教員の I C T活用能力向上を図る研修や互見授業を計画的に実施する。
2	学校生活	保健管理	目標 ○児童生徒が健康、安全に学校生活を送れるよう実態に応じた健康管理の充実に努めるとともに、事故を未然に防止する視点をもって学習環境を整備する。 ○医療的ケア等を安全・安心に実施する。 ○食についての知識を深め、健全な食生活を実践するための力を育てる。
			計画 ○毎日の健康管理や保護者との情報交換により児童生徒の生活習慣や健康状態を把握して、基本的な生活習慣の育成や個に応じた健康の保持増進に努める。 ○インシデント・アクシデントへの気付きを促す取組により安全意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境の改善に努める。 ○医療的ケアの実施体制及び、医療機関との連携を含めた緊急体制を教職員に周知する。 ○バランスのよい食事について理解したり、正しい食習慣を身に付けたりできるように児童生徒の実態に応じた食育を推進する。
		生徒指導	目標 ○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。 ○災害時における組織的対応力を高める。
			計画 ○ネットトラブルやいじめ等、社会における生徒指導上の諸問題の実情を収集し、全教職員で共通理解を図り対応や指導を行う。 ○危機管理マニュアルなどで、教職員全体で共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。
3	進路支援	目標 ○進路啓発の取組の充実に努める。	
		計画 ○個に応じた進路選択・決定ができるように、必要な福祉・進路情報を収集し、提供する。 ○小学部、中学部、高等部が連携し、各年齢段階に応じたキャリア教育を推進する。 ○関係機関と連携し、企業及び福祉事業所の開拓を積極的に行う。	
4	特別活動	特別活動	目標 ○児童生徒会活動の活性化を図る。
			計画 ○学校行事や児童生徒会執行部が企画する行事、各専門委員会の活動を通じて、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。
		学校 図書室	目標 ○読書環境を整備する。 ○図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。
			計画 ○各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備したり、ロビーやホールに別置図書を配置したりする。 ○読み聞かせや読書活動を促して、図書に親しむ機会を設ける。
5	その他	寄宿舎部	目標 ○一人一人の実態に応じた生活支援を行うとともに、生活力の向上を図る。 ○安心安全に生活するための支援及び緊急時の安全確保について確認し行動できるようにする。
			計画 ○家庭や学校と情報交換を密にし、連携を図りながらスモールステップの目標を設定し取り組む。 ○健康で安心できる生活を送るための対策をとるとともに、緊急時にスム

		<p>ーズな対応ができるように宿直時の体制確認や様々な想定訓練を重ねる。</p>
教育支援	目標	<p>○地域のセンター的機能の充実を図るとともに、適切な就学につながる情報提供や教育相談を行う。</p> <p>○個別の教育支援計画を活用して、関係諸機関との連携を図る。</p>
	計画	<p>○就学・進学の仕事についての理解促進を促すとともに、保護者の心情を理解した教育相談に努める。</p> <p>○特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援や障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修会等への参加や事例検討を行い、専門性の向上に努める。</p> <p>○個別の教育支援計画を使って、支援の具体的な内容や合理的配慮などについて関係諸機関と情報交換し、効果的な支援が行えるようにする。</p>
図書情報	目標	<p>○本校の教育活動への理解啓発を図るため、日々の授業や行事等での活動の様子を含めた様々な情報を積極的に発信する。</p>
	計画	<p>○各学部や分掌と連携し、日々の学習の様子や情報を発信する。</p> <p>○学校HPの更新を積極的に行い、必要な情報を発信する。</p>
PTA活動	目標	<p>○PTA活動の在り方を見直し、活性化を図る。</p>
	計画	<p>○保護者のニーズに応じた懇談会や情報交換の機会を設定し、活性化を図る。</p> <p>○PTA各委員会の担当保護者と教員との連絡・調整を密にし、活動内容の充実を図る。</p>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 - 教務部		
重点項目	学習活動－教育課程編成	
重点課題	教科指導の充実を目指した新学習指導要領に基づく年間指導計画の見直し	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度から全教科等について年間指導計画を作成し、令和3年度はそれを基に実践、同時に、学部別グループや3学部を通じた教科ごとのグループで見直しを行った。</li> <li>教科等ごとに系統立てて学習計画、教科書採択が検討されているが、学年が上がるにつれ、教科の目標や教科書が生徒の実態と差がある場合がみられる。</li> <li>年間指導計画をより児童生徒の実態に即し、学校全体の系統性をもたせたものになるようにし、教科指導の充実につなげたい。</li> </ul>	
達成目標	学習の段階を踏まえた、各教科の年間指導計画の検討会 グループごとに3回以上ずつ	年間指導計画の目標・内容に関する教員の意識向上  見直し実施前と比較して、実態に即したものになったと教員が感じた割合が20%増
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の年間指導計画の目標・内容が、学習指導要領のどの段階に当たるかを確認する。</li> <li>児童生徒の実態から学校全体の系統性を考慮し、年間指導計画作成の基にする学習指導要領の目標・内容の段階を検討する。</li> <li>現行の年間指導計画の目標・内容を検討した段階に従って再編成し、採択教科書についても検討する。</li> <li>目標・内容の重なりについて、学部間で調整する。</li> <li>年間指導計画に基づいた授業実践から、次年度計画に生かせる点を検討する。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 - 教育支援部		
重点項目	その他－教育支援	
重点課題	個別の教育支援計画を活用した関係機関との連携	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な教育的支援が必要な児童生徒について、家庭や医療、福祉、保健、労働など関係機関との連携は不可欠である。個別の教育支援計画には、児童生徒が関わる関係諸機関等を記載しているが、連携のツールとして活用するまでには至っていないのが現状である。児童生徒に効果的な支援をするためには、個別の教育支援計画を活用し、関係機関との連携・協力が必要である。</li> </ul>	
達成目標	個別の教育支援計画を活用した関係機関との連携についての校内研修会の実施	個別の教育支援計画を活用して連携したケース数 全体の70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会から出ている「学校と関係機関等の連携を図った特別支援教育の推進」のパンフレットの内容についての研修会、実際に個別の教育支援計画を活用した実践事例の紹介をし、全教職員が、個別の教育支援計画を使って支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項、合理的配慮などについて共通理解し、効果的に支援できるようにする。</li> <li>児童生徒が利用している放課後等デイサービスから情報共有のニーズがあるか調査し、ニーズがあった関係機関と情報共有する場を設定する。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）